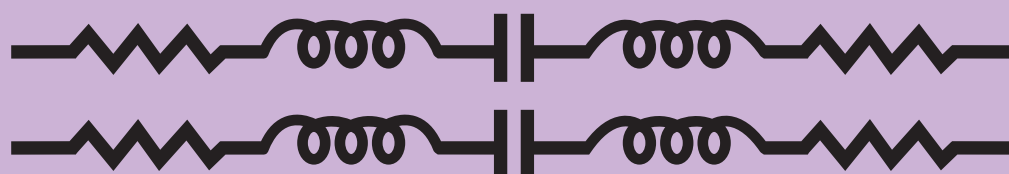


岩手大学電気電子情報科会誌

# きたかみ

第 64 号

2018 年 3 月 発行



# 目 次

会長挨拶	会長 籾福 寛	1
佐藤淳先生追悼特集		
ご略歴		2
ご業績		3
お礼に代えて	佐藤 裕之	4
思い出	佐々木喜八郎	5
	柴田 隆昭	6
	根本 宏一	7
	長田 雅裕	8
	菅原 智明	9
	山田 弘	10
「偲ぶ会」実施報告		11
写真（偲ぶ会スナップ）		12
退職された先生からの寄稿	西谷 泰昭	14
	三輪 譲二	17
	千葉 茂樹	18
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 小林宏一郎	20
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 萩原 義裕	21
第14回（平成28年度）草刈賞受賞者		23
《支部だより》平成29年度東京支部報告	狩野 利之	25
平成29年度仙台支部報告	数藤 崇	26
平成29年度盛岡支部報告	久保田賢二	27
平成29年度岩手大学電気電子情報科会総会		28
平成29年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録		29
平成28年度決算書・平成29年度予算書		30
平成29年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		31
平成29年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース構成員名簿		32
総会添付資料		33
平成29年年表		34
岩手大学電気電子情報科会会則		36
トピックス・編集後記		37
平成30年度総会のご案内		裏紙

# ご 挨拶

会長 旗福 寛 (昭和38年電気卒)



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。  
ここに会誌「きたかみ 64号」をお届けできますことを嬉しく思います。

平成29年度の総会は6月24日(土)東京市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」において開催されました。6年に一度の東京総会は東京支部の皆さんのご尽力で90名を越す参加を頂き特別講演を含め、盛大に行われました。

昭和17年1月盛岡高等工業学校電気科第1回生は卒業と同時に草刈先生を会長に戴き、盛岡高工電気科会を創設しました。十年後、昭和26年草刈先生に代わり一回生の阿部源祐さんが会長に選出されました。阿部さんは本科会の会則の起草など、会の創設に携わった一人で、会長(昭和26～29年)、その後相談役となり、創立50周年記念事業や草刈先生生誕100周年事業の実行委員長として当科会を先導されてきました。今年百歳をお迎えになるという事で、総会の懇親会では私達も阿部さんの長寿にあやかりたいという思いで乾杯を致しました。しかし、東京総会の一週間前、6月17日阿部さんは既にお亡くなりになっており、葬儀も済ませたと御家族からお知らせがありました。予想しておらなかったことでしばらく心の整理をしましたが理事会のご意見も伺い11月11日、仙台支部のご協力で仙台北山の輪王寺に墓参を致しました。このことについては本号の仙台支部報告をお読み下さい。

さて、本64号の主な内容は、1昨年(平成28年)1月に亡くなられた佐藤淳先生の追悼号となっております。佐藤先生は新制大学発足(昭和24年)後まもなく電気工学科に最初に赴任された教員で、平成4年工学部長で御定年となりました。その間、電子工学科(昭和41年)、情報工学科(昭和50年)の増設や大学院の設置に深く関わってこられました。昨年4月佐藤先生にお世話になった卒業生が呼びかけ「佐藤淳先生を偲ぶ会」が行われ、盛岡四ツ家教会における祭儀と駅前のホテルにおける追悼昼食会が行われました。

ところで、本会の運営は入学時に頂く入会費と卒業後10年ごとに1万円をお納め頂く年会費によって行われております。会費未納の方には振込用紙を本誌と共に送っておりますので納入方をお願いいたします。

終りに会員の皆様の御健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

# 佐藤 淳 先生



## ご 略 歴

大正15年11月6日 山形県で誕生  
平成28年1月6日 逝 去

昭和20年 3月 山形高等学校理科甲類卒業  
昭和23年 3月 東北大学工学部電気工学科卒業  
23年 4月 東北大学大学院第一期特別研究生  
25年 4月 東北大学大学院第二期特別研究生  
26年 4月 岩手大学講師（工学部）  
34年11月 岩手大学助教授  
37年 2月 工学博士（東北大学）  
「空気、絶縁油二層誘電体の高電  
界電気伝導に関する研究」  
39年 4月 岩手大学教授  
42年 4月 八戸工業高等専門学校講師併任  
（平成元年3月まで）

昭和43年11月 文部省在外研究員  
（ドイツ連邦共和国ブラウンシュ  
バイク工科大学、1年間）  
51年 3月 岩手大学評議員（56年6月まで）  
59年 4月 岩手大学評議員（平成4年3月まで）  
59年 4月 一関工業高等専門学校講師併任  
（平成2年3月まで）  
63年 4月 岩手大学情報処理センター長（初代）  
平成 2年 4月 岩手大学工学部長（第16代）  
4年 3月 岩手大学定年退官  
4年 5月 岩手大学名誉教授  
17年 4月 瑞宝中綬章受章



## ご 業 績



先生は、昭和 23 年 3 月に東北大学工学部電気工学科を卒業、同大学大学院特別研究生を経て昭和 26 年 4 月に岩手大学へ赴任されました。昭和 39 年 4 月に教授に昇任し、平成 4 年 3 月の定年退官まで、41 年間にわたって教育・研究、管理運営に尽力され、大きな業績を残されました。

先生は一貫して液体誘電体の電気伝導に関する研究に取り組み、大きな成果を上げられました。昭和 37 年 2 月にはそれまでの研究をまとめた論文「空気、絶縁油二層誘電体の高電界電気伝導に関する研究」に対し、東北大学から工学博士の学位を授与されています。その後も液体誘電体に関する研究を続け、昭和 43 年 11 月から 1 年間、ドイツ連邦共和国の名門ブラウンシュバイク工科大学で文部省在外研究員として研究生活を送られました。それらの成果が高く評価され、昭和 49 年 2 月電気学会発行の改訂新版「放電ハンドブック」の著者に選ばれ、第 3 篇「液体」の第 1 部第 2 章、第 2 部第 2 章、第 4 部第 4 章の執筆を担当しています。また先生は学界活動にも貢献され、平成 2 年 9 月に 6000 人の会員を集めて岩手大学で開催された第 51 回応用物理学会秋季学術講演会を、現地実行委員会委員長として成功に導かれました。

先生はまた、学生の教育に大変な情熱を注ぎ、多くの有為な人材を世に送り出しました。喩や擬音を駆使した講義は非常にわかりやすく、学生の勉学意欲を引き出し、学問への夢を与えてくれました。学生の教育のために寸暇を惜しまず、またよく学生の話聞いてくださいましたから、学生の信頼と尊敬の念は大変大きいものでした。また先生は卒業生を大事にされ、電気電子情報科会の顧問を長年お努めになられ、草刈賞基金に多額のご寄付もなさっておられます。

先生には教育研究に情熱を傾ける一方、大学の発展に大きな足跡を残しています。先生は、大学院修士課程を工学部にも設置すべく奔走していた当時の工学部長草刈先生の片腕となり、実現に努力されました。昭和 43 年 4 月から大学院が設置され、岩手大学工学部の形が整いました。先生はその後評議員に選出され、大学の運営に長い間直接的にかかわり、大学の発展に貢献されました。情報処理分野の発展を見越し、学部・専門にかかわりなく情報処理教育を行い、一方では情報を一元的に処理する機関の必要性を説いて情報処理センターの設置を実現し、その初代センター長をお努めになられました。

平成 2 年 4 月には第 16 代工学部長に推され就任されました。このころ大学院工学研究科に博士課程を設置しようという機運が高まっていたので、先生は設置の前提となる工学部の改組に心血を注がれました。その結果、難航していた改組が在任中に認められ、定年退官 4 年後の平成 8 年 4 月から工学部は大学院修士課程、博士課程をもつ、名実ともに大学の形を整えることができました。先生の大学発展に果たした役割は非常に大きいものがあります。工学部はその後理工学部へと発展しています。

以上のように、先生は学界、岩手大学、さらには地域社会に大きな貢献をなさいましたが、これらの業績が認められ、平成 17 年 4 月に瑞宝中綬章を受章されました。

## お礼に代えて

佐藤 裕之(長男)



この度の会誌「きたかみ 64号」の発行をお祝い申し上げます。また、故人となりました父淳のために追悼の特集を企画して下さいましたことに感謝申し上げます。

職を離れて20年を越える年月が経ちますのに思い出して頂き、「偲ぶ会」を盛大に開いて頂きましたことにもありがたく重ねて深く御礼申し上げます。過大なお言葉を頂き、恥ずかしくも嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

平成二十八年一月六日の死去に際しましては、故人の生前からの希望があり松の内でもありましたので、できるだけ皆様を煩わせることなく送りたいと考えました。家族葬として近親の者だけで送ることと致しましたが、今思いますと故人を大切に考えて下さいます皆様に対しましても申し訳なかったであろうかと思出し悩ましく思うこともあります。

進学のために家を離れまして永く経ち父と同室で休むことも遠い遠い昔のことでありましたが、納棺前の一夜を父母と静かに過ごすことができましたのは幸いなことでありました。故人も好きでありましたワインを飲みながら一夜を過ごしましたが、早朝三時頃でしょうか、棺の中の父が笑っているのに気づきました。病中見ることのなかった穏やかな笑顔でありましたが、「全てまかせたから、このままでいいから」と納得してくれた笑いであったと思います。

故人は在職中も家の二階で過ごすことが習慣でしたが、思うように足を動かすことができなくなりましてからは階下のテーブル前で好きな図書等を広げるようになりました。不自由はありましたが、元気でおりました時分には、葬儀用の写

真はこれがよいとかあれがよいとか、冗談交じりに話しておりました。入院後に階上の机の上に、一枚の写真が遺されているのを母が見つけたのですが、遺された写真は生前話をしてきた写真とは別のものでした。父なりにこれを使えということかと考えまして葬儀には遺された写真を使うことといたしました。

皆様をはじめ、故人を慕って下さる方々に恵まれましたことは、遺されました私どもにとりまして有り難いこととございます。故人と永くおつきあい下さいました方に、ベルリンで誘電体研究に従事しておられますヴェルナーシュミット氏ご夫妻がおられます。家族のものとも親しくしていただきました。二十年前のことになりますが、私は一年間ドイツに滞在する機会があり、父母とともにシュミット家を訪ねることができましたのはよい思い出の一つです。杖を使い足を不自由にしながらも、辞書を引きつつ歩くのは故人の悪い癖であったと思いますが、足下の悪い場所や夜間など、辞書をひくのは止めてほしくて注意をしても空返事ばかりでなかなか言うことを聞いてはくれませんでした。あらためて想い出しますと、空返事の悪癖は私にも伝わっているようです。永く暖かく故人とおつきあい下さいました皆様の優しく寛容なお気持ちを改めて感じますとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に故人の座右の銘を紹介させていただきます。

「いつも喜びを忘れず 絶えず祈りなさい  
どんなことにも感謝しなさい」  
(第一テサロニケ・五・十七～十八)

皆様の暖かいお気持ちに重ねて感謝申し上げますとともに、皆様のご健康とご健勝をお祈りいたします。

## 佐藤淳先生の思い出

佐々木 喜八郎（昭和 28 年電気卒）



私は、盛岡工専（盛岡工業専門学校）電気科に第 10 回生として昭和 23 年 4 月に入学したものの、翌年春に母校が大学に昇格することになりました。

工専 10 回入学生は希望により試験を受けて岩手大学に入学できることになったのですが、各人色々な事情があり、大学に進学しようという者はクラスの半数程度でした。残りの半数ほどはそのまま工専で勉強し、昭和 26 年 3 月に工専最後の卒業生として一足早く社会に飛び出しました。私は両親の勧めもあって、新設された岩手大学工学部電気工学科の第 1 回生 30 名の一人として昭和 24 年 7 月に入学しました。

我々 1 回生が 3 年になった昭和 26 年 4 月に着任されたのが、佐藤淳先生でした。先生は熱血溢れんばかりで、高電圧工学のエキスパートだという噂のとおり、講義は面白く新鮮なものでした。電気は導線を伝わってのみ流れるものと思込んでいた私には、電圧が高くなると導線がない空気中でも“ボカン”という放電が生じて電流が流れるということを教わり、驚いたことを覚えています。講義のたびに“ボカン”、“ボカン”というものですから、“ボカンさん”と親しみを込めて呼んだものでした。3 年生になると工場見学があり、10 月に佐藤先生に引率されて京浜地区の昭和電線、富士通、名古屋地区の三菱電機、そして京都では趣を変えて家電製品の会社を見学しましたが、この旅行の楽

しい思い出が強く残っています。新任の佐藤先生は我々とあまり年も違いませんでしたから、先生というよりは兄貴分という感じで親しくさせていただきました。

昭和 28 年 3 月に電気工学科 24 名は岩手大学第 1 回生として卒業しました。私は、当時岩手県が県営発電所を造ろうと考えていることを聞き、岩手県庁に入りました。県営胆沢第 2 発電所を皮切りに（第 1 は電源開発株式会社がすでに建設済み）、次々と発電所の建設・運営を手掛けましたが、この間、発電所の計画・システムなどについて佐藤先生にご助言いただいたことを思い出します。その後岩手県企画調整部にエネルギー部門が新設されるにあたり、初代エネルギー課長を努めました。この時も佐藤先生を顧問にお願いして「エネルギー問題懇談会」を立ち上げて、勉強会、講演会など様々な活動を行いながら、久慈市に国家石油備蓄基地を実現するなどしました。

佐藤淳先生には学生時代から様々な形で大変お世話になりました。県勢の発展に幾分なりとも寄与出来たのは先生のお陰であり、厚く御礼申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

### プロフィール

昭和 28 年 岩手県庁入り。電力局、企業局電気課長、企画調整部エネルギー課長を経て、岩手県企業局次長で退職

# 電気工学教育に 擬音語・擬態語・オノマトペをとりいれた先達

— 佐藤 淳先生を偲びつつ —

柴 田 隆 昭（昭和 37 年電気卒）



## <はじめに>

「きたかみ」誌もあと 1 年で「平成」から別の年号に変わる。今や会員層は 80 代から 20 代まで及ぶ。スマホもなければ勿論 Projector もない時代の

ことである。我々学生は物質的には貧しく、寮生であった小生らは飢えていた。そのような中で、昭和 30 年代のあの時代様相を「科会会員」全体に理解して貰うことは至難の業であろう。

## <佐藤研究室を望んだこと>

私は 2 年次から 3 年次に進級する際に躊躇することなく佐藤研究室を希望・選択した。それはとりもなおさず佐藤先生の評判を伺っていたからである。当時、同袍寮長であった中村一夫様（9 回生）から『ボガンは面白いぞ!』と良く聞かされていた。佐藤先生は案の定、授業にて、『シュルシュル／ボカーン』とか『バリバリドーン』などと日本語の擬音語・擬態語を用いて教えて下さった。それはやはり先生の親切心から学生諸君に「高電圧工学」に親しみや関心を持ってもらいたいとの願いからではなかったかと推察している。

## <「擬音語・擬態語辞典」をお送りしたこと>

時は 2003 年 11 月、私は僭越にも先生に講談社発行（山口仲美編集）の「暮らしのことは擬音擬態語辞典」なるものをお送りした。それを佐藤先生がどのように活用したかは定かではないが、電気工学教育に日本語の擬音語・擬態語を取り入れられた先達であったことには変わりはない。

## <平成 17 年の瑞寶中綬章伝達式の撮影>

佐藤先生が平成 17 年春の叙勲者褒章で「瑞寶中綬章」の栄に浴された。私は当日（5 月 23 日）、五月晴れの港区芝公園の「東京プリンスホテルパークタワー」で開催された「平成 17 年文部科学省春の叙勲伝達式」にカメラを抱えて行った。叙勲対象者にはカメラの携行を遠慮するようにとの通達が届いており、それは受章者の皇居参内があるためであり、配偶者を含めた参加者の殆どが携行していなかった。私は一通り、伝達式の模様を撮影させてもらった。何れ奥様ともども語らいを持ちたかったが、受章者は文科省差し回しのバスにて皇居に向かわれた。あれから十数年、ここから先生のご冥福をお祈りする次第である。

## プロフィール

昭和 14 年秋田県横手市生れ。千葉県流山市在住 78 歳。昭和 37 年電気工学科卒、同年 4 月原子燃料公社（現：日本原子力研究開発機構）に入社、主として応用放射線計測業務、昭和 46 年から東京本社に於いて保障措置（核査察）並びに核物質防護（核テロ防止）等の核物質管理の業務に従事した。定年前に（財）核物質管理センターに移籍し、関連業務を行い、その後（財）原子力安全技術センターにてスピーデーの開発業務に従事した。現在は日本ラジオ歌謡研究会の会員としてラジオ歌謡の普及・啓発活動を行っている。



## 佐藤淳先生を偲んで

根本 宏一（昭和41年電気卒）



佐藤淳先生への思い出として、多くの卒業生の皆様が共通なのは、授業熱心のあまり、高電圧放電現象を表す「ボカン！ボカン！」の擬音が強烈に印象的で、先輩からも

好感をもって「ボカンさん」のあだ名で呼ばれていたことかと思えます。佐藤先生の一般的なことは皆様の記憶に委ねることとして、先生が小生の人生に深く係わって下さったことを述べさせていただきます。

昭和41年3月予定通り工学部電気工学科を卒業しましたが、伯父が経営していた地元私立高校の教員になるため専攻科で佐藤先生の研究室に残り、教育学部の授業を受け、高校理科の教員免許を取得しました。父親に病死され母子家庭だった私には、伯父から学費を支援してもらっていた立場から、教員への道は断れませんでした。当時電気を中心とした技術革新はめざましく、元々電気工学科へは技術者希望で入学したので教員生活にはなじみず、日が経つにつれ技術者へのあこがれは強くなるばかりでした。1年で教員をやめ、一度大学推薦で内定して断った地元の電気機器製造メーカーへ、佐藤先生のご尽力で再就職できました。この転職の際、学費を出して自分の経営する高校での活躍を期待した伯父の意向と、自分の希望との狭間で葛藤していた私の悩みを聞いて下さり、相談に乗って頂いたのが佐藤先生でした。専攻科に在籍した際、研究室での生活から私の技量、性格、姿勢などを察知して、将来に向けての私の希望に真剣に耳を傾け、指針を示されたと思われれます。この頃先生はお子様小さく、家庭でも大変な時期だったにもかかわらず、自宅まで

押しかけた私の相談に乗って頂き、今考えると本当に申し訳ないことをしたと反省致しますと共に今でも感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。伯父からはこっぴどく叱られましたが、先生のお陰で技術の世界に入ることができました。特に、中間管理職の時代に、技術の他、組織、経理、人事などいわゆる管理業務が入ってきて仕事の幅、量、質が大きく変わってきた時、思い出すことがあります。先生とご一緒していた際に、一度だけ眩くように、「ある年齢になると・・・」とおっしゃったことがありました。ずばりの言葉は定かではありませんが、意味合いは今でいう「理不尽、虚栄、忖度など」等かと思えます。先生もその後、工学部長までおやりになられましたので、丁度管理職への入り口あたりの時期で、今まで通りの論文発表、授業、研究室業務などに管理業務が重なってきていたのだと思い、私にはそれも良い勉強になったと感謝しております。

私の人生を電気技術の道へお導き下さったのは佐藤淳先生です。お陰様でとってもハッピーな人生を送ることができました。

### プロフィール

昭和18年12月1日 福島県郡山市に生まれる。地元小・中学校、安積高校卒業後、昭和37年岩手大学工学部電気工学科入学、昭和41年同学部卒業後、同専攻科に1年在学。昭和42年より郡山市の私立安積商業高校にて教諭1年勤務。昭和43年福島市の北芝電機株式会社に入社。変圧器設計担当後、昭和53年より電熱（誘導加熱）システム設計を担当し平成13年退職。卒業後は郡山市に在住。

## 先生とのエピソードなど



1971年の入学式で演奏された曲がビートルズのHey Jude、ワルキューレの騎行を演奏した大学もあるを知り「俺はいい学校に入った」と思いました。

小学生の時に雑誌の付録の鉱石ラジオのクリスタルレシーバーから蚊の鳴くように、しかしハッキリ聞こえた放送に感動し、それからハンダ鋸を振り回すようになり嵩じて電気工学科に入学。一般教養で学ぶなか秋に下宿の先輩に「面白いよ」と連れられて行った電気展で佐藤先生の電力講座と出会いました。

当時の高圧実験棟のでっかい放電試験機が球ギャップで放電させる音と閃光に痺れて、電力講座に一般教養の講義の合間に遊びに行くようになりました。先生にも声をかけていただき、話をさせてもらったりもして、先輩が電子計算機を使って過渡電気伝導の電流波形を描かせることに驚き、飲み会にも参加させてもらい、四年になったら講座は電力にしようと固く心に決めたのでした。

先生の講義で印象に残っているのが発変電工学で、管路式水力発電を例にして同期発電機は擾乱があった場合に内部位相角が変化して入出力がバランスすると話し、擾乱の例に「熊が貯水池にジャボンと飛び込んで水位が上がる」と、

長 田 雅 裕 (昭和 50 年電気卒)

熊公一匹でそんなに水位が上がるのかいな、と心の中で反論しつつしっかり印象付けられました。今も旅行で車窓からペンストックを見かけるとその時の講義を思い出し、貯水池に向かってダッシュして次々飛び込む熊たちが脳裏に浮かびます。

四年生になり講座に配属され、夕方になると時々、先生が「ここでお弁当食べていいかい」と学生の部屋にいらっしゃいました。「文献を調べていたら、弁当を食べるのを忘れてしまったさ」、そのころ放電ハンドブックに執筆なさるので殊の外お忙しくなっていました。私たちが学生を親身に指導され、疲れも見せず輝いていた先生を誇らしく感じたのを思い出します。

改めて佐藤先生のご冥福をお祈りいたします。

### プロフィール

1953 年生まれ

1971 年入学、1977 年大学院卒業後教務職員

1978 年～ 2011 年 澤藤電機株式会社

2011 年～ 2017 年 株式会社エス・エス・デー  
社長 (澤藤電機の電算子会社)

## 佐藤先生の思い出

菅原 智明（昭和63年電気卒）



先日、北海道の試験研究機関の集まりで、M工業大学元教授のM先生と話す機会がありました。金属の専門家のM先生が、高電圧電源の件で佐藤先生に相談したとのこと。何十年も昔のこと

ですが、親切にしてください、印象深いと話されていました。多くの人の心に残る先生なのだと、私もうれしくなりました。

私は4年生のときの卒研と、修士課程のときに先生からご指導いただきました。先生は工学部長に就任する少し前の時期で、とてもお忙しい頃だったと記憶していますし、直接的にご指導いただいたのは、私が最後の学生かもしれません。

ソフトボール大会や卒研発表などの打ち上げでは大いに笑い、唄を歌い、お酒を飲む姿が懐かしく、忘れられません。竜飛岬からトロッコでトンネルを降りて、開業前の青函トンネルの見学に行ったこと、秋田の火力発電所にも講座のみんなと一緒に見学旅行したこと、本当に楽しい思い出をいただき、感謝しています。

修士論文をまとめる時期のことです。内容を見ていただけないでしょうかと先生に相談すると、平日は忙しいので、日曜日はどうだと言われ、晩秋の人気のない大学で、先生と二人きりで長い時間、ご指導・ご助言いただきました。

今もあのときのひんやりとした部屋の空気感と、先生の熱のこもった言葉が思い出されます。

先生は身近な人を幸せにするとよいとおっしゃっていましたが、私はなかなかそうできませんでした。私の子どもが自閉症で知的障害があって、自分だけ取り残されて不幸を感じていたのです。受け入れるのにずいぶん時間がかかりましたが、今思うと先生は、どんな人にも苦労や不幸はあるけれども運命を越えたところで、周囲の人に幸福を与えなさいということを書いていたのではないかと感じます。先生から生きることの大切さを教えていただきました。

いつか、先生に会うことができれば、またゆっくりお話ししたいと思います。場所は大学の教室がよいでしょうか。先生、それまで見守ってください。私もよい報告ができるよう頑張って生きてゆきます。先生、ありがとうございました。

### プロフィール

1988年 電気工学科卒業

1990年 電気工学専攻修士課程修了

1990年 函館地域産業振興財団（北海道立工業技術センター）に入所、研究開発部所属。現在、中小企業との共同研究、工業技術支援業務に従事。博士（工学）

## 佐藤先生の思い出

山田

弘（岩手大学名誉教授・元電気電子工学科教授）



佐藤先生をわずか二文字で表わせば豪傑となるうか。小生が大学院生の時に、学会の演壇に立つ先生にすでにそれが現れていた。博士課程の最後の年にフランスで国際会議があり、当時所属する

研究室の先輩先生のカバン持ちとしてそれに参加した。この学会で見学旅行や発表の合間によく佐藤先生の方から小生に寄って来られることが不思議だった。その理由は後に分かることになる。しかし、その時は将来の上司になることは想定できなかったのも、日本から離れていたことも影響してか、研究のこののみならずいろいろなことを先生と自由奔放に話すことができた。

先生の粋を外れた行動力が思い出される。これが先生の魅力の一つであり、学生から人気が高かった理由のようだ。今までのやり方に捉われず思い切ったことができる人だった。同情心も強く、他人を怨むことや陰で工作することはまず考えられない人だった。聡明な頭脳は、いつも小生を羨ましがらせた。夏目漱石の「坊ちゃん」の主人公がそのまま歳をとると佐藤先生になるのではないだろうか。先生にとっては規則よりもその場その場での効果を重視したようである。以下はその一例である。卒業前の研究室配属条件は不足単位で3科目6単位程度だった。しかし、先生は、最後の学年でも頑張ればいくらかでも単位は取れるという考えだったから、希望者は誰でも我々の講座に入れてしまった。手元に残っている昭和58年度学生所在表を見ると、電力講座には23名が配属されている。その中で決められた配属条件を満たす者は6名だけである。専門実験の手引も、親切なモノは一切作らないから、翌日の朝まで殆ど徹夜で実験したOBも多かったのではないか。

この「とらわれない」ことが直属の部下を決めるときにも出たようである。部下には教え子

でもなく大学の後輩でもなく、研究分野さえ離れた者がよい、と考えられたようである。人事はどこでも冒険である。人事異動の少ない大学ではその度はさらに大きい。しかし、何事でも「とらわれない」ことは「大きな冒険」が続いてこそ初めて生きる。日本人には冒険DNAがない、という勝手なことを言う欧米人がいる。少なくとも佐藤先生は冒険DNAを豊富に持たれていたように思う。

小生がMITで生活してあまり違和感がなくて済んだのは、その前に世界的視野を持たれた「とらわれない」佐藤先生とのお付き合いがあったことにもよる。ところで、佐藤先生はどちらかといえばドイツびいきで、小生をベルリンのハーン・マイトナー研究所あたりに行かせたかったようだ。しかし、小生がMITに行くことになるのと積極的に後押しされた。期待されたほどの成果は挙げられなかったことを今でも申し訳なく感じている。それでもMIT生活から得るところは大であった。MITの方針と佐藤先生の考え方には相通ずるものがある。まず、卒業すると、編入学生などの例外を除いて、すべての学部卒業者を他大学の大学院に追い出して冒険させる。その代わりに全大学院生を他大学の卒業生から入れる。また、研究面では、冒険してきた伸び代のある研究者はどんどん外から招き次の大きな機会を与える。その結果MITのノーベル賞の受賞者は81名となる。その中でMITの学部卒や大学院修了者は18名だけあるが、それだけでも相当な数である。ノーベル3賞に限れば7～8人に1人はMITから出ているのではないか。冒険DNAの有無を論じるよりもそれが生きて働けるシステム作りが重要なことは間違いない。

佐藤先生は接待上手でもあった。そこに一期一会を感じさせる自然体を見た。小生には未だに一期一会が難しい。佐藤先生の生き方の大事な部分を真似ようとしてきた自分に改めて気付く。

## 「佐藤淳先生を偲ぶ会」実施報告

発起人代表

太田原 功（昭和30年電気卒）

平成28年1月、佐藤淳先生がお亡くなりになられた後、「先生を偲ぶ機会を要望する声」があちらこちらから聞こえて参りました。この声に応えるために同年11月、「佐藤淳先生を偲ぶ会」の構想を立ち上げ、発起人50余名の方々のご協力を頂きながら計9回、延べ30余時間の打合せ協議を経て、平成29年4月22日「佐藤淳先生を偲ぶ会」を第1部「追悼の祭儀」、第2部「追悼昼食会」として実施致しました。

第1部「追悼の祭儀」を盛岡市本町通カトリック四ツ家教会で厳かに行った後、第2部「追悼昼食会」は、場所を盛岡駅前のホテルルイズに移して先生の思い出を偲び合いました。「追悼昼食会」には、ご来賓として先生の奥様佐藤美津子様、ご長男の佐藤

裕之様、三女の中尾真樹子様、祭儀を司祭された四ツ家教会のインセン神父様、佐藤淳先生の教会における業績を祭儀において奉呈された信徒代表菅野耕毅様（岩手医科大学名誉教授）にご参加頂きました。ご来賓5名、旧教職員9名、卒業生60名、計74名の「追悼昼食会」でした。

お花料として協賛された教職員ならびに卒業生は163名、併せて232名の協賛、更にはご遺族様と、菅野様から多額のご芳志を頂戴致しました。

「佐藤淳先生を偲ぶ会」が、このように多数の方々の協賛のもとに、厳粛、かつ和やかに実施出来たことは、教え子達から絶大な人気のあった「流石は佐藤淳先生！」との思いを改めて深くした次第でございます。

### 発起人

山田 弘元教授	浦田 寛 S38	久保田賢二 S42	恒川 佳隆 S55
佐々木経夫元技官	岡本 康之 S38	福士 紘一 S42	川崎 敏 S60
加藤 昭二元技官	柏葉安兵衛 S38	佐々木良治 S43	長田 洋 S62
佐々木喜八郎 S28	齋藤 健 S38	高橋 和幸 S44	木村 慎吾 S62
吉田登美男 S28	籀福 寛 S38	谷口 宏 S45	高橋 康浩 S62
小野寺瑞穂 S29	最上清治郎 S38	柳橋 好子 S45	菅原 智明 S63
太田原 功 S30	渡邊 寛 S38	澤藤 隆一 S47	菅野 丘 S63
歳弘 健 S33	石井 幸一 S39	田中 健二 S49	玉田 耕治 H01
古村 光 S34	富原 喜宣 S39	千葉 則茂 S49	村田 崇 H02
齋藤 弘 S34	風呂 功 S39	長田 雅裕 S50	
関 享士郎 S34	石塚 幸一 S40	工藤 昌夫 S51	
熱海 宏佑 S36	佐藤 匡 S40	熊田 克俊 S51	
柴田 隆昭 S37	千葉 浩克 S40	数藤 崇 S52	
三浦 守 S37	山内 隆 S40	渡辺 俊彦 S53	
稲田 興 S38	田山 典男 S41	田代 良二 S55	

【一部】 追悼の祭儀



カトリック四ツ家教会



追悼の祭儀



参列会員の皆さん



ご遺族の皆様

(前列左から三女中尾真樹子様, 奥様, 長男裕之様)



佐藤淳先生を偲ぶ会 平成 29 年 4 月 22 日 ホテル ルイズ

[二部] 追悼昼食会



司会  
小野寺瑞穂氏 (S29 卒)



発起人代表挨拶  
太田原功氏 (S30 卒)



ご業績紹介 柏葉安兵衛氏 (S38 卒)



献杯 山田弘氏 (元電気電子工学科教授)



ご遺族・ご来賓の皆様



昼食会風景



ご遺族ご挨拶 佐藤裕之様



岩手大学学生歌斉唱

## －退職された先生からの寄稿－

### 17年間を振り返って

西谷 泰昭



同窓生のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、平成29年3月をもちまして岩手大学を定年退職いたしました。着任が平成12年(2000年)

ですので、岩手大学に17年間勤務いたしました。この間、みなさまのご厚情に支えられ、大過なく職務を果たすことができましたこと、改めて心から感謝を申し上げます。

私は富山で生まれ、大学は仙台、民間会社に就職して東京、その後、群馬大学での13年間の教員生活を経て、岩手に参りました。岩手での17年間は、私にとって、高校卒業までの富山暮らしに次ぐ長い期間ですし、退職後も岩手に住まいしていますので、もうすぐ最長期間の暮らしとなります。

今回、電気電子情報科会の会誌に寄稿の機会をいただきましたので、17年間を振り返って、岩手での思い出などを(まとまりがなくて申し訳ないのですが)思いつくままに申し述べたいと思います。

岩手大学での17年間を俯瞰すれば、平成12年(2000年)の着任からの数年間は(法人化があり、評価・評価の時期ではありましたが)比較的平穏に過ごすことができたように思います。しかし、その後は、政策的に示された大学改革の方向性と財政的なアメとムチにより、次々と教育組織の改編や新組織の設置などが続き、大学の状況は大きく変化しました。個人的には、この変化の時期に大学運営にかかわるこ

とになり、評議員・工学部長として平成21年(2009年)の改組や平成23年(2011年)の東日本大震災への対応、理事・副学長としては平成28年(2016年)の全学改組計画、堺茂樹前学長の逝去など、まさに激動の期間でした。

比較的平穏な期間(平成12年～20年):まずは、前半の「比較的平穏な期間」から振り返りたいと思います。

平成12年(2000年)の着任時の辞令は、当時の工学部長(その後学長になられた)平山健一先生からいただきました。まだ法人化の前で、学長からではなく学部長からの辞令交付という形になっていました。また、現在の辞令のような「岩手大学 教授」ではなく、「岩手大学工学部 教授」となっていたように思います。所属は情報システム工学科です。同時に採用された先生方のうち吉森先生、雷先生が同じ情報システム工学科でした。

この年は工学部の改組があり、福祉システム工学科が新しく設置された年でした(9年後に評議員として福祉システム工学科の発展的解消を進め、せっかくの「福祉」という名称を工学部から消す役目になるとは夢にも思いませんでした)。情報工学科も情報システム工学科に改組され、当時の教授は、横山隆三、三浦守、渡邊孝志、千葉則茂、安倍正人の各先生方でした。高浪五男先生は一関高専校長に転出、新貝鉦蔵先生をはじめとする生体情報分野の先生方は福祉システム工学科に異動された直後でした。

岩手大学の在任期間に担当した授業科目は、「情報基礎」、「形式言語理論」、「離散数学Ⅰ・Ⅱ」、「論理回路論」、「オペレーティングシステ



ム」などでした。

私の専門はアルゴリズムなどの理論研究でしたので、形式言語・オートマトンや離散数学などは研究テーマに沿った科目でした。また、論理回路についても回路の最適化アルゴリズムを考えたことがあり、教科書さえあれば何とかこなせる科目でした。オペレーティングシステムは、20年近いUnixユーザ経験、10年近いシステム管理者経験をもとに勉強しつつ講義を行いました。ただ、よい教科書がなかったように思います。最も苦勞して準備した科目が「情報基礎」でした。

当時の情報基礎は専門科目で（現在は教養科目）、学科の計算機システムの導入教育でした。情報システム工学科の新入生が4月から受ける最初の専門科目で、卒業までの4年間を通して授業や研究で道具として利用する学科の計算機システムについてその環境と操作を、実技を含めて学ぶこと／身につけることが目的でした。情報機器はまだ家庭へ普及しておらず、新入生でインターネットの経験者は皆無、PC経験者もほとんどいなかったように思います。

当時の学科システムは、Unixオペレーティングシステムのサーバと、X Windowシステムを利用するX端末から構成されており、これは、国立大学の情報系のシステムとしては平均的なものでした。必要かつ最小限の内容を講義に盛り込むこと、実際に手を動かすことを意図して、サイトローカルな情報を含めて自習可能な講義資料を作成しようと思いました。着任後すぐの講義でしたので自転車操業でしたが、まああの講義資料だったように思います。この導入講義のおかげで、計算機の世界に学生をどのように引き込むかということを考えることができました。

研究室の立ち上げは、技術職員の吉田功さん

と配属になった4年生5名で始めました。何も（机も椅子も）ない部屋の床に前任地から持ってきたPCが数台置いてある状態からでした。平成13年（2001年）に平山貴司先生、平成14年11月には荒木徹先生を迎えてようやく形が整いました。平成20年（2008年）に荒木先生が群馬大学に転出し、平成23年（2011年）に山中克久先生に来ていただきました。平山先生は回路設計の最適化、荒木先生、山中先生はグラフなどを対象としたアルゴリズム開発を学生とともに進めていただきました。

研究室の学生にも恵まれました。たとえば、科会の草刈賞（確か平成15年度から始まったように記憶しています）には、昨年までに8名の学生を私の研究室から受賞者として選んでいただきました。草刈賞の受賞は本人たちにとって大きな励みになったと思います。改めてお礼を申し上げます。

激動の期間（平成20年～）：本稿の最初で述べたように、岩手大学での17年間の後半は大学運営にかかわった期間でした。工学部の評議員になったのは平成20年（2008年）でした。当時の堺茂樹工学部長（建設環境）をはじめ評議員3名は、大学運営に関わるような役職に初めてついた教員でした（当時の教職員はきっと心配されたのではないのでしょうか）。

その最初の仕事が工学部改組でした。改組計画案は既にまとまっており、福祉システム工学科の発展的解消、電気電子・情報システム工学科の設置（定員120名の大所帯）、大学院コミュニケーションデザイン工学専攻（デザインメディア）の設置などが主な改組内容でした。この改組を平成21年（2009年）に実施するために、平成20年に計画案を文科省の大学設置審議会に諮ったわけです。その結果、ある委員から「コミュニケーションデザイン」という専攻名につ

## －退職された先生からの寄稿－

いて疑義／再考の意見が付けられてしまいました。我々からすれば、誤解に近い／あるいはもう少し丁寧な説明をしておけばというものでしたが、千葉則茂先生と相談して、現在の「デザインメディア」という専攻名に変更し、デザインのわかるプログラマ／プログラムのわかるデザイナーを養成するという切口中で、何とか大学設置審議会を通すことができました。デザインメディアが別の名前になっていたかもしれないというお話でした。

東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）が発生した時刻に私は研究室にいました。揺れがおさまってから工学部事務室で堺工学部長と合流し、まずは、避難した学生を 1 号館前に集めました。300 名くらいでしたでしょうか。その後、建物の安全性が懸念されるため、建物への立ち入りを禁止とする／学生は帰宅させる／教職員管理の下、学生は時間を限って研究室から私物を持ち出すなどを決めました。このとき、一番困ったのは、学生を集める、決定事項を知らせなどの連絡機能（停電で人に頼るしかない）の欠如でした。今さらですが、非常時の準備や訓練の必要性を強く感じます。

震災の翌日は後期日程の入試が予定されており、震災当日の夕方時点では、大学としては、入試は実施の予定でした（最終的には中止）。この判断をはじめ、震災の直後は、情報がない状態で次々と様々な判断が要請されるという状況を身を持って体験しました。準備があれば非常時の判断をすべてカバーできるわけではないのですが、いくらかなりともその負担を軽減できるというのは重要だと思います。

平成 26 年（2014 年）は、堺茂樹先生が新学長となり、学部と大学院を現在の形にする全学改組の計画案を検討した年です。学部については、教育学部の新課程廃止、工学部の理工学部

への改組、農学部の水産コース設置、大学院については全学一研究科という方針を、堺学長のリーダーシップでスピード感をもって学内合意としました。その後、文科省との事前相談を始めましたが、堺学長が逝去されたのは、まだ多くの相談事項が残っており、文科省の国立大学改革との擦り合わせがまだ不十分というときでした。改組はもちろん通常の大学運営も非常事態であり、暫定的に私が学長代行として職務を果たすことになりました。改組計画は待たなしの状況でしたので、大学院の改組を先送りし、学部改組を優先的に行うこととしました。リーダーが不在となったのでスピードを落とさざるを得ないのですが、改組全体を先送りすれば、文科省の更なるムチ（定員減）を受けることになるという判断でした（これが正しかったかどうかは不明です）。最終的には、計画案通り平成 28 年に、理工学部ができ、電気電子通信コース、知能・メディア情報コースが誕生しました。現場の先生方には大変なご苦勞をおかけしたと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

以上、まとまりもなく思い出を述べました。最後になりましたが、電気電子情報科会のみなさまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、退職のご挨拶といたします。

## システム＝ハード＋ソフト＋データ

三 輪 譲 二



電気電子情報科会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、平成 29 年 3 月末をもちまして定年退職いたしました。昭和 57

年の情報工学科赴任から工学部電気電子・情報システム工学科までの 35 年多くの皆様のサポートを得て勤務させていただくことができました。4 月からは、非常勤講師として「ベクトル解析、応用信号処理、データベース」を引き続き担当させていただいております。

表記のタイトルは、私の退職記念講演会と同じで、システム構築には、ハードウェアやソフトウェアの他に、データが非常に重要であることを伝えるためのものです。

教育研究では、音声情報処理が中心でしたが、赴任した直後は、お国言葉を音声認識するため、方言音声収集に、津軽から与那国まで、自らカセットテープレコーダを担いで行きました。この調査では、美しい自然ばかりでなく、沖縄や奄美大島などの戦争遺構を目にすることになり、平和の重要性を痛感させられました。

これまでの研究を通して、言語コミュニケーションが世界平和に重要と考え、Java 情報技術を用いた日本語教育 e-Learning システム LESSON/J と iCampus の開発運用を実施し、世界中の日本語学習者の音声データを提供してもらうため、23 ヶ国での学会参加や大学訪問

をしました。当初の日本語発音評価システムは、パソコン録音で Web 手動アップロードでしたが、3 年前よりスマホアプリで録音とアップロードが自動となり、また、マイクとの距離が約 4 分の 1 と S/N が改善し、発音評価性能を飛躍的に改善することができました。すなわち、音声認識アプリ SIRI などの普及は、大規模学習データの自動収集やラベリングと共に、スマホの S/N が性能向上に大きく貢献している。

さらに、非漢字圏の日本語学習者の漢字自律学習支援を目的として、手書き文字認識システム uPal を公開運用してきた。このシステムでは、自動的に集まる文字データをデータベースシステムで管理することにより、比較的簡単に認識辞書を更新し、性能を向上させることができた。また、文字認識アルゴリズムから漢字画文法という筆順などを規則化でき非常に有効な漢字教育法を提案できた。

近年、マイクロフォンアレイを用いた米国製スマートスピーカが脚光を浴びているが、夫婦喧嘩などの音声もすべて収集されており、便利さばかりでなくプライバシー漏洩に気を付ける必要があり、また、米国企業による独占化が危惧されるので、これらの日本製システムの利用を促進し、ビックデータを有効に活用できる国策が必要と思われる。

最後になりましたが、研究室メンバーや教職員の皆様を始めとして、お世話になった多くの方々に、心よりお礼申し上げます。

## 在職 42 年間の思い出

岩手大学技術部 千葉茂樹



会員の皆様におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、平成 29 年 3 月 31 日をもちまして岩手大学を定年退職いたしました。思い起こせば、昭和

50 年 3 月に、岩手県南の工業高校を卒業してから 2 週間も経たずに、当時の岩手大学工学部電気工学科に技術職員として採用されて以来、42 年もの間務めさせていただきました。印象に残った事を思いつくままに記させていただきますが、何分にも 42 年間の事ですので、思い違いなどがあるかもしれませんがご容赦のほどよろしく願いいたします。

採用された昭和 50 年は、4 月に情報工学科(現理工学部システム創成工学科知能・メディア情報コース)が設置された年でもあります。勤め始めた時はまだ情報工学科の建物もなく(3 年後に建設されたと記憶しております)、電気工学科と電子工学科、機械工学科の建物の周辺には、応用化学科、金属工学科、工学部事務等が入った建物と、工学部の東側の敷地には真新しい土木工学科の建物が建っていたほか、高電圧実験棟、また木造の建物などもあちこちに建っていたなど、今にして思えば古き良き時代から新しい時代へ変わりつつある頃だったと思います。

採用面接は、電気工学科の佐藤淳教授と電子工学科の岩田純蔵教授のお二人でした。採用後の配属先は、志田純一先生が教授をしておられた電力応用工学講座で、志田先生のほかに、助教授に三浦守先生、講師に関享士郎先生、技術職員に菊地新司さんがおられました。採用された頃は、三浦先生の研究を手伝い、三浦先生が

情報工学科へ移られた後、関先生が定年退官するまで、講座の卒業生で当時助手だった長田洋教授と、主に磁性体が持つ磁気特性と電気的特性をセンサへ応用する研究を研究室の学生と行っていたほか、学生実験や学科の様々な仕事をさせていただきました。

また、同じく電力応用工学講座の卒業生で、志田先生がご在職していたとき助手だった恒川佳隆教授とは、電力応用工学講座で学生実験等を一緒に担当させていただきました。

関先生のご退官後、平成 18 年に定年退職された柏葉安兵衛教授の研究(酸化亜鉛を用いた光デバイスへの応用)と、長田先生の研究(ザゼンソウが持つ恒温制御アルゴリズムを用いた温度制御)を、定年退職した平成 29 年 3 月末まで担当させていただき、この間、電気学会や応用物理学会から、論文発表賞などを共著者として戴く事が出来ましたのも、先生方や研究室の学生の皆様のお陰と感謝しております。



写真 1 電気学会論文発表賞の記念品(上)と賞状(下)

学生実験は、工業高校を卒業して 1 か月ほどで、担当しましたので、どの様に学生に接して指導したらよいか分からず、また、工業高校の時には、授業では学んだ事が有ったかもしれませんが、実際に実験などをした事が無かった為、当時の学生の皆さんには、あやふやな(知った

かぶり)で)指導をしてご迷惑をお掛けしたのではないかと思います。

当時の学生実験では、電気工学科だけでなく、電子工学科と情報工学科の学生にも、電気工学科の学生実験のテーマを何年か、手作りの実験装置で指導した覚えが有ります。今にして思えば、広く浅くではありますが、電気、電子、情報関係の基礎的な実験を、先生方や技術職員の個性ある教え方が体験できた事は、今の学生と違って、様々な分野に興味を持つ事が出来る良い機会だったのではないかと思います。

また、電気系の学科が3学科だった頃は、1学年あたりの学科の学生数が現在に比べ少なく、電気工学科の学生だけではなく、電子工学科や情報工学科の学生の名前や顔などを、覚える事が出来たと思います。ただ、残念ながら、卒業以来お会いしていない方々も多く、こちらも、物覚えが悪い方ですので、今お会いしても、思い出せないかもしれません。

42年の間には、電気工学科と電子工学科が電気電子工学科と改組になり、その後、情報システム工学科(旧情報工学科)と併せて電気電子・情報システム工学科(電気電子工学コースと情報システム工学コース)に改組し、平成28年には、工学部が学部改組し理工学部となり、学科も3つの学科(化学・生命理工学科、物理・材料理工学科、システム創成工学科)に再編し、電気電子・情報システム工学科は、機

械工学科、社会環境工学科と併せて、システム創成工学科と改組し、電気電子通信コースと知能・メディア情報コースになりました。この間のほとんどを、電気電子工学関連の学科などで教育・研究等の仕事に携わらせて頂きました。ただ最後の数年間は、理工学部技術職員組織のマネジメントをする事になりましたが。

電気電子情報科会との関係も長く、私が電力応用講座に配属された当時、確か、三浦先生が科会の役員として、科会の会員名簿の管理をしておられた時期が有り、研究の手伝いをしながら、名簿に記載された会員の方々の住所変更や、「きたかみ」の発送に関するお手伝いなどをさせて頂いていた頃からです。その関係なのかはよく分かりませんが、科会創立70周年記念式典に、当時の岩手大学長藤井克己先生とお招きいただいた事を覚えております。

なお、定年退職後、非常勤職員として、岩手大学に、数年ほど勤める事になりましたので、皆様岩手大学にお越する機会がございましたら、お声をお掛けいただければ幸いです。

最後に、42年の永きにわたり、岩手大学に勤める事が出来たのも、教職員の皆様、また研究室の学生の皆様をはじめ、会員である卒業生の皆様のご厚情の賜と深く感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご発展と併せ、電気電子情報科会のますますのご発展を祈念させていただきます。



写真2 岩手大学電気電子情報科会 創立70周年記念式典記念撮影の1コマ  
(前列左から9人目：藤井元学長、右から4人目：千葉)

# 電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 小林 宏一郎

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。本コースは、平成28年4月から、理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースに改組され2年目になります。今年度の教員の異動はなく、教授7人、准教授5人、助教3人の15人で教育研究を行っています。また、本コースで長らくお世話になってきました理工学系第二技術室室長千葉茂樹さんが平成29年3月に定年退職されました。引き続き技術職員としてお勤めいただけることになりました。

平成29年4月7日に入学式が行われ、本コースでは新入生68人を迎えました。また、今年度は大学院修士課程の改組が行われました。大学院が1研究科になり、本コースの教員は総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コースの所属になります。理工学専攻の入学者160人に対して、本コースには46人(約30%)が所属しており(2017年4月現在)、最も大学院生の多いコースになりました。本コースの今年度の進学率は、他大学と研究生を含めて約75%となり、非常に多い印象でした。これは、本コースへの企業からの期待される人材として大学院生が多いことによると思います。私は、大学での学びは研究室配属後が最も勉強をする時期と考えており、大学院進学は貴重な経験(研究)ができる時期と考えています。

昨年度の進路状況としまして、学部生の多くが進学しており、電力系企業や運輸や通信系、さらに公務員や高校教員といった分野へも就職しています。大学院生は40名が就職しており、例年通り電力系、電機メーカ、通信、運輸など幅広い分野に就職しました。これも電気電子情報科会の先輩方のお力添えの賜であり、深く感謝申し上げます。

本コースについてのニュースをいくつかご紹介します。高橋克幸助教が、平成29年3月3日にISPlasma2017/IC-Plants2017実行委員会

からBest presentation awardを受賞されました。阿部貴美助教が、平成29年7月7日に公益財団法人本多記念会から第57回原田研究奨励賞(研究業績:ZnO単結晶基板を用いた光デバイスの研究)を受賞されました。若手の活躍はコースに力を与えてくれると感じており、非常にうれしく思います。また、社会人から学生へ向けた講義として「電気電子工学専門研修(旧社長実践学)」を実施しています。株式会社花巻バイオマスエナジー 森井様、金井様、株式会社ソフトクリエイティブホールディングス 阿部様、株式会社竹中工務店技術研究所 山崎様、株式会社NTTドコモ先端技術研究所 猪俣様、高橋様、株式会社融合技術開発センター 秋山様、株式会社パターンアート 八重樫様、東北電力株式会社 加藤様、アイシン・コムクルーズ株式会社 加藤様にご講演いただきました。これまでの講演では、普段大学では聞けない会社での話を聞くことができ、学生は興味深く講義を聞いていました。9月には3年生の工場見学が実施され、関東方面として、いすゞ自動車株式会社藤沢工場、株式会社東芝府中事業所、アンリツ株式会社、株式会社NTTドコモR&Dセンタの工場見学に約50名が参加しました。県内方面として、株式会社デンソー岩手、株式会社アイメタルテクノロジー北上工場に約20名が参加しました。改めまして、ご対応いただきました関係各位に御礼申し上げます。

現在本学では、平成31年度の大学院博士課程の改組へ向けて、検討を進めています。現状では、博士修了後の進路に関して、不安を抱く学生が多く、博士課程への進学率が低い状況です。諸先輩方の皆様のご意見を伺いながら、より良い博士課程を作っていきたいと思います。様々なアドバイスをお願いします。

最後になりますが、教職員一同、魅力ある大学、コースになるように努力していく所存です。今後とも会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 萩原義裕

電気電子情報科会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平成29年度の本コースの近況をお届けいたします。

昨年度4月にスタートした理工学部システム創成工学科の下、知能・メディア情報コースも2年目を迎え、昨年度入学した学生も2年生になりました。近年の情報関連技術の革新の影響か、学生もスマートフォンのアプリケーション、人工知能、コンピュータグラフィックスなど、様々な技術に対して胸を膨らませており、その期待に応えるべく教職員一同努力しております。改組の影響か、情報関連技術に対して、具体的にやりたいことを持っている学生が増えているということを肌で感じます。彼らが大学で社会で充実した生活を送ることができるよう、体制を整えつつあります。

少子化の影響が強く懸念されている入試倍率等も、その低下に歯止めがかけられている状況と考えております。もちろん、先々を考えると楽観視することは決して許されるものではありませんので、この勢いを維持すべく尽力していく所存です。

理工学部では、改組にともない、先端理工特別プログラム、地域創生特別プログラム（ものづくり系）、という枠を設置しました。先端的な教育研究および、ものづくりや技術スキルに特化した人材の育成をめざし、AO入試を入口として各コースおよび学科コース横断的なカリキュラムで学ぶ区分です。各特別プログラムとも、コースの一員として机を並べることに加え、横断的な学びやチーム学習を行っています。

情報コースでは各学年2、3名の学生がこの特別プログラムに所属し、学科をまたいで自身のモチベーションを上げるべく取り組んでおります。特別プログラム所属の学生が、特別プログラムに所属していない学生にも刺激を与え、コース全体を活性化させることを狙っており、知能・メディア情報コースと電気電子通信コースに分かれて専門深化をめざすことに加えて人材や技術の多様性、相互刺激による活性化を目指しております。

本年度は、大学院も一部改組し、修士課程総合科学研究科・理工学専攻・知能情報コースと同デザイン・メディア工学コースとなりました。博士課程は修士課程に引き続き、次年度の認可を目指しております。

大学院の修士課程では、技術関連のリベラルアーツを含む幅広い学びを取り入れ、学生の視野を広げることを狙っております。修士の学生が取得する単位数が増えたため、学生は苦勞しておりますが、社会に出てその苦勞が報われることを祈念しております。

大学院の博士後期課程の改組は計画中で文部科学省の認可をめざしているところではありますが、電気電子情報科会会員の皆様ご在職の企業様にも就職先として、また長期インターンシップや共同研究先として、ご協力をお願いしているところです。大学とのつながりが企業様にとっても将来の会員である学生にとっても役に立つものであってほしいと考えております。

博士課程は、修士課程修了生、留学生に加え、社会人にもより一層門戸を開きつつあります。

「社会人ドクター」と呼びますが、企業在職中にも博士課程の学生になることができる制度で、すでに少なからぬ博士学位取得者を輩出しております。社会人ドクターは、職場に関連する研究を行うケースと、出身研究室でやりたかったことなど自身の興味ある分野での研究をおこなうケースがございます。いずれのケースも、とくに情報分野の場合、特殊な実験機器が必要になることは少なく、またインターネット経由でやり取りができますので盛岡に頻繁に通う必要もありません。岩手大学の学費負担等の軽減措置は他大学より大きく充実しておりますので、興味がありましたらぜひともご検討いただければと存じます。近年では退職後の学び直しとして入学なさる方も少なからずいらっしゃいます。修士修了でなくてもご経験があれば、また大学の教員のアドバイスを受け、ご経験を積んでいただければ入学可能です。

今年度は、有効求人倍率が1.48倍とバブル期を越え43年ぶりの水準とのことで、特に情報関連業種は他業種と比べて就活生に有利な状況と伺っております。電気電子情報科会会員の皆様のなかにも求人のためにご来訪いただいた方が多くいらっしゃいました。企業様にとってはご負担が大きい時期とは存じますが、就活生の苦勞を見てきた側としては、学生が社会人として大きく羽ばたけるチャンスがいつそう広がってほしいと考えておりますので、会員の皆様の引き続きのご厚情を賜ればと存じます。もちろん、教職員、学生ともにこの状況に甘えることなく、工夫と努力を積み重ねていく所存です。技術職の場合特に、就活生と企業様の業種・職種のマッチングが重要ですので、応募の少ない職種であっても学生の志向とマッチングできれば応募することもあると思います。企業様の所在地によっては岩手にある本学まで足を

運ぶのも少なからぬご負担とは思いますが、学生にとっても電気電子情報科会会員の皆様がご在籍の企業様なら安心して考えることもできると思いますのでよろしくお願い致します。

教職員の構成も少し変わりました。筑波技術大学からあらたに張建偉氏を准教授として迎えました。張建偉准教授は、データ工学・福祉情報工学を専門とし、ウェブ情報を対象として、ユーザが意図する知識を抽出するウェブマイニングや情報推薦技術に関する研究に取り込んでいます。また、健常者・障害者の区別なく、全ての人が情報を提供できる・受け取れることを目指した障害者支援に関する研究も行っています。

また、永田仁史氏が教授に昇任、松山克胤氏が准教授に昇任、山中克久氏も准教授に昇任しました。各氏いずれもすでにコースの一員として教育研究に携わっておりますので電気電子情報科会会員の皆様にもなじみ深い教員かと思えます。

一方で、安倍正人教授と情報系技術職員の那須川徳博氏が今年度いっぱいでご退職となります。ベテランの教職員の退職はさみしいことではありますが、新たに研究室を構える教員とともに、より一層尽力してまいります。ご出身の研究室がなくなると会員の皆様の足も遠のきがちかもしれませんが、その時点の研究教育体制をご覧いただくことはできますのでお気軽に足を運んでいただければと存じます。今後ともよろしくお願い致します。



## －草刈賞－

### 第14回（平成28年度）草刈賞受賞者

#### 草刈賞を受賞して



私が草刈賞を受賞してから一年が経とうとしています。伝統ある草刈賞を頂き、大変光栄に思

います。

私は新入生の時に生協学生委員会に入会し、より良い学生生活をめざし、フレンドサポートや履修相談会など、様々な活動に携わってきました。また準硬式野球部にも入部し、小学生の頃から始めた野球も続けています。主に打撃面でチームに貢献し、秋季リーグ初戦ではチームの逆転勝利につながる同点タイムリーヒットを放ち、リーグ上位入賞に貢献しました。勉強との両立は大変でしたが、どちらも続けてよかったと思います。

私は岩手大学大学院に進学し、マイクロ波帯

#### 電気電子工学コース 梅坂 司

誘電率・透磁率測定手法についての研究を進めています。電気電子コースソフトボール大会の際には、学生委員会での経験を活かして企画長の役割を全うし、プレイでも研究室の優勝に貢献することができました。

大学生活では好きな事・やりたい事に目一杯時間を費やすことができます。後輩の皆さんには今しか出来ないことに挑戦し、実りのある大学生活を送ってほしいと思います。また、現在の

楽しく有意義な大学生活を支えて下さっている家族や先生、友人たちに感謝し、今後の大学生活を充実したものになりたいと思います。



#### 《草刈賞の趣旨》

草刈先生は旧電気工学科を中心として、岩手大学の基礎を築かれた方である。先生のご業績を称え、後世にその教えを伝えるために、電気情報系コース卒業生の中から、意欲的な学生生活を送り後輩の模範となる学生に草刈賞を授与することによって、学部学生の向上心を啓発することを旨とする。



草刈メダルと賞状

## 受賞してから一年

情報システム工学コース 伊藤 大



僕が草刈賞を受賞して一年が経ちます。僕は今、岩手県北上市にあるソフトウェア開発を行っている会社に勤務しております。

大学時代はあまり勉強しなかったため色々と苦労しております。特に英語にで

すが、英語の仕様書を読む機会がありもっと英語を勉強しておけば良かったなと後悔しております。わからないことが沢山あり毎日が勉強ですが、知識が増えていく事に喜びを感じております。今後もいろいろな事を学び、経験し、いずれは地域を引っ張っていける人材になりたいです。

草刈賞を受賞したきっかけでもある東日本大震災ボランティアは現在でも続けており、主に

仮設住宅でのサロン活動と地域の伝統行事への参加をしております。東日本大震災から7年が経とうとしている今、色々な地域で仮設の集約や撤去が始まっており、常に色々な課題が沢山出てきております。また、仮設住宅に限らず復興公営住宅に移られた方々のコミュニティ形成の問題や自力再建された方々と地域の方々のコミュニティ形成の問題など沢山の課題があります。このように様々な問題に対して社会人になった僕が出来る事はほとんどありませんが、どのような形になってでも通い続けて少しでも住民の方々に寄り添って行こうと思います。

最後に、これまで支えてくださった家族、先生、友人、住民の方々に感謝し、今度は皆さんに恩返しできるようにこれからも頑張っていきます。

## 草刈賞を受賞して

情報システム工学コース 佐藤 浩



私が草刈賞を受賞して一年が経とうとしています。伝統ある草刈賞を頂いて光栄に思います。

私は新入生時に準硬式野球部に所属し、3年間活動してきました。チームのメンバーと共に、練習を積み重ねていった結果、私が3年生の時に開催された東北地区大学準硬式連盟秋季リーグにおいて、ベストナイン賞という賞を受賞しました。これは東北リーグに所属している大学

の選手の中から、各ポジションごとに優れた選手一人がもらえる賞です。チームとしては東北リーグ1部で3位という成績で終えることができました。

私は岩手大学大学院に進学し、現在専門分野についてより深く勉強しています。大変ながらも充実した日々を過ごしています。後輩の皆さんには、学生時代にしか取り組めないものに精一杯挑戦し、たくさんの経験を積んでほしいと思います。

最後に大学生活を支えてくださった家族、先生、後輩、友人へ感謝し、今後の生活を送りたいと思います。

## 《支部だより》

# 平成 29 年度東京支部報告

東京支部長 狩野利之（昭和 61 年電子卒）

平成 29 年度の東京支部大会は、6 月 24 日（土）に、アルカディア市ヶ谷（私学会館）にて開催されました。本年度は、本部総会が東京での合同開催という年にあたり、前回までの 10 月開催を 4 か月前倒ししての開催としたこともあり、東京支部としても準備やご案内などに例年以上に精力的に取り組みました。

大会は、簗福寛会長、柏葉安兵衛一祐会理事からご挨拶をいただき、活動の報告に移りました。今年は支部大会が 6 月開催ということで、支部活動や会計の期間など見直しを行ってきており、それに基づいた活動報告をベースとして、本部関係行事への参加、他学科の東京支部との交流、役員会活動、大学訪問の取り組み及びホームページ、Facebook に関する取組などの報告などを行いました。

また、支部役員を選出においては、約 3 年半支部活動でご尽力いただいた田中支部長にかわり、小職が支部長を務めさせていただくことになりました。誠心誠意取り組む所存でございます。どうぞよろしく願いいたします。

支部大会の開催とともに支部として取り組んでいる施策に、大学への O B 訪問があります。これは、同窓会活動の活性化などを目的に大学訪問や現役学生との交流をとおして、近い将来就職などで首都圏に勤務することになる皆さんが少しでも同窓会活動に参加しやすい環境を作るための活動として開始し、今年で 3 回目になります。

今年度は 10 月 6 日（金）に実施いたしました。東京支部からのメンバーは、支部事務局の加瀬貞二氏（H04 卒）、遠藤慎介氏（同）、そして支部会員から三浦友規氏（H16 院）の 3 名。今年は支部会員としては若手？の三浦さんのご協力を得て大学、先生方とのスケジュールなどがスムーズに調整いただけました。

今回は、高木先生、小林先生、萩原先生、三浦先生、木村先生の研究室を訪問させていただきました。

各研究室では、研究の内容や成果をわかりやすくご説明いただき、様々な取り組みの現状を知ることができました。夜の懇親会でもさらに交流を深めることができました。詳しい内容は支部ホームページでご紹介する予定です。

同窓会活動の活性化が目的で支部活動の紹介を中心に開始した施策でしたが、先生方のご協力をいただき、訪問した O B も最新の母校の取り組みに触れることができ、支部会員への情報共有を図ることで更なる活性化という双方向の効果が期待できるということが大きな気づきとなりました。

平成 30 年度以降は東京支部大会を 6 月開催として各種活動を実施していきます。今後とも会員の皆様のご支援をよろしく願いいたします。

支部ホームページ URL : <http://iueei-tokyo.main.jp/>

## 《支部だより》

# 平成 29 年度仙台支部報告

仙台支部長 数 藤 崇 (昭和 52 年電気卒)

平成 29 年の支部活動は、1 月 21 日 (土) の役員会+新年会からスタートいたしました。役員会では年間スケジュールの確認と 4 月に予定される「長寿を祝う会」の進め方について議論し、その後 新年会を行い、情報交換と親睦を深めました。

4 月 15 日 (土) は役員会にて 6 月開催予定の支部総会の準備確認事項を実施した後、第 9 回「長寿を祝う会」を予定しておりましたが、“対象の方が欠席”ということで桜観会として開催いたしました。

6 月 17 日 (土):支部総会当日の午前中は、「第 2 回目の仙台地下鉄東西線の見学会」を開催し、本部からの篠福会長や、仙台支部のご家族・子供さんの参加もいただきました。

午後の支部総会は、来賓として篠福会長をお迎えし、ハーネル仙台において開催しました。議事として H28 年度事業報告・決算報告及び H29 年度事業計画等の審議が行われ了承されました。

総会に引続き 2 名の先生による「講演会」を開催し、懇親会にも出席いただきました。

講演 1 「考古学と情報叙述の出会い。-石器による 3 次元ジグソーパズル-」  
岩手大学理工学部 教授 今野晃市氏

講演 2 「大気圧放電プラズマの環境・農業への応用」

岩手大学理工学部 助教 高橋克幸氏

### 【阿部源祐さんの墓参実施の報告】

岩手大学電気電子情報科会の創設者となる「専門 1 回生」の阿部源祐さんが平成 29 年 6 月 17 日に永眠いたしました。阿部源祐さんは、大正 7 年 12 月 5 日生まれで、今年の 12 月 5 日で満 99 歳、数え年 100 歳となり、「百寿のお祝い」について科会本部と相談していたところでした。

阿部源祐さんの訃報を受け、科会本部は“本部の公式行事”として、仙台市の輪王寺への墓参を実施いたしました。当日は、本部から篠福会長や太田原先生・柏葉先生など 6 名、東京支部から 2 名、仙台支部から 7 名の総勢 15 名が参列し、墓前での読経に続き、太田原先生からの感謝の言葉のあと、全員で焼香し、ご冥福をお祈りいたしました。

なお、阿部源祐さんの功績等については、次回の「きたかみ」にて特集されるとのことで



阿部源祐さんの墓参会

## 《支部だより》

# 平成 29 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 久保田 賢 二（昭和 42 年電気卒）

本部総会が東京開催だったため支部総会を行わず、30 年度本部総会と同日の支部総会で 2 年分の事業・決算を審議して頂くことにしました。今年度の支部活動は次の 2 点です。

### 1. 「岩手日報制作センター」見学会

平成 29 年 10 月 30 日（月）10 時～12 時半、参加者計 13 名。

岩手日报社元制作局長の宮手敏雄氏（S44 電気卒）の全面的なお世話で開催することが出来ました。同氏が纏めた資料「岩手日報技術小史」に基づく同氏による制作センター開設経緯等の説明後、センター長斎藤氏による施設の説明と案内で新聞制作過程をつぶさに見学させて頂きました。両氏をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。見学会終了後近くの蕎麦屋「天一坊」で昼食、近況報告・懇談、14 時半に散会しました。



制作センター見学中の一コマ

### 2. 平成 30 年岩手大学電気電子情報科会新年会（本部と共催）

平成 30 年 1 月 27 日（土）15 時～17 時、盛岡駅前通「ホテルルイズ」、参加者 30 名。

新年会に先立って記念撮影、昨年 3 月母校電気系を定年退職された西谷泰昭先生と三輪譲二先生に、長年の会員育成と本会へのご尽力に対する謝意とご労苦を労う意を込めて篠福寛会長から花束の贈呈が行われました。千葉茂樹氏のご都合があり欠席でした。

会に入り、乾杯は今年も太田圭一氏（S24・専 8 卒）にお願いしました。戦後間もない物資欠乏・青山町兵舎跡での学生の頃を振り返っての貴重なお話をお聞きできました。

来年の新年会も 1 月最終土曜日の予定です。詳細は本部事務局にご照会下さい。



岩手日報制作センター玄関にて



新年会 平成 30 年 1 月 27 日 ホテルルイズにて

# 平成 29 年度岩手大学電気電子情報科会総会

平成 29 年度岩手大学電気電子情報科会総会は、6 月 24 日（土）、東京のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催されました。

科会総会の開催は盛岡で 2 年、東京で 1 年、また盛岡で 2 年の次は仙台でと決まっており、今年では東京開催の年でした。

東京支部のみな様のご尽力により、準備万端、出席者は 92 人と会場いっぱいになりました。

電気 62 年卒長田理事の司会で始まり、電気電子通信コース長小林宏一郎教授にご祝辞を頂きました。

議長は直前の東京支部大会で支部長に就任したばかりの電子 61 年卒狩野利之氏、書記に電気 44 年卒武田謙太郎氏と電気 46 年卒小森文雄氏が選任されました。

狩野議長の進行により第 1 号議案から第 4 号議案まで事務局から詳細に説明がなされ、すべて異議なく承認されました。

総会後の講演会はお二人の講師にお願いしました。

①演題「大学の近況と研究動向」

講師 小林 宏一郎 氏

（電気電子通信コース長）

②演題「『更なる価値』をお客様へ・世界へ」

講師 吉澤 和弘 氏

（NTTドコモ代表取締役社長）情報54年卒

母校の研究動向やトップ企業代表の高い技術の話しに目を見張り感心しながら拝聴し、在学当時の研究室を思い出した人も多かったようです。

その後会場を移し、懇親会は東京支部企画で、元三曲部員たちの尺八演奏で始まり、知能・メディア情報コース長萩原義裕教授にご祝辞をいただいた後、親睦を深め合い、大いに盛り上がりました。

1  
グループ



2  
グループ



東京支部大会・総会 記念写真

# 平成 29 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日時：平成 29 年 6 月 24 日（土）

13:30～14:10

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）伊吹の間

議長：狩野利之氏（東京支部長、電子 S61 卒）

書記：武田謙太郎氏（電気 S44 卒）

小森文雄氏（電気 S46 卒）

出席者 92 人

## ●第 1 号、第 2 号議案について

事務局より平成 28 年度事業 6 件（きたかみ 63 号発行、ホームページ検討委員会活動、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動、創立 75 周年記念式典）について概要が報告された。関連して平成 28 年度の決算報告が行われ、続いて及川会計監査より監査報告が行われた。

議案は異議なく承認された。

## ●第 3 号、第 4 号議案について

事務局より平成 29 年度事業計画案（きたかみ 64 号発行、ホームページ検討委員会活動、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動）が説明された。

続いて事業計画を勘案した平成 29 年度の予算案について詳細説明が行われた。議案は異議なく承認された。



講師 小林宏一郎氏



講師 吉澤和弘氏



総会風景



元三曲部員による尺八演奏



熱歌熱唱

# 平成 29 年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(平成 30 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)
会 長	籾 福 寛	S 38 (気 11)	東京支部		
副 会 長	恒 川 佳 隆	55 (気 28)	幹 事	松 本 洋 一	S 40 (気 13)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	幹 事	薄 衣 文 雄	41 (気 14)
副 会 長	立 花 龍 一	61 (情 8)	幹 事	小 磯 巖 男	51 (気 24)
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)	幹 事	畠 山 主	54 (情 1)
理 事	佐 藤 匡	40 (気 13)	幹 事	吉 澤 和 弘	54 (情 1)
理 事	吉 田 英 夫	41 (気 14)	幹 事	畠 山 寧	59 (子 15)
理 事	武 田 寿 郎	41 (気 14)	幹 事	山 道 隆 男	62 (気 35)
理 事	宮 手 敏 雄	44 (気 17)	幹 事	富 塚 秀 樹	H 2 (気 38)
理 事	千 葉 則 茂	50 (気 23)	幹 事	中 山 靖 茂	H 4 (気 40)
理 事	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	幹 事	遠 藤 慎 介	H 4 (子 23)
理事・盛岡支部長	久保田 賢 二	42 (気 15)	幹 事	三 浦 友 規	H16 (電電院)
理事・仙台支部長	数 藤 崇	52 (気 25)	盛岡支部		
理事・東京支部長	狩 野 利 之	61 (子 17)	幹 事	岡 英 夫	48 (子院 4)
理 事・事務局	長 田 洋	62 (気 35)	幹 事	池 内 達	50 (子 6)
理 事・事務局	木 村 彰 男	H 3 (情 13)	幹 事	佐 藤 信	57 (子 13)
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)	幹 事	佐 藤 文 昭	59 (子 15)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11 (電情博)	幹 事	泉 澤 栄	60 (子 16)
顧 問	志 田 純 一	特	幹 事	高 橋 康 浩	62 (気 35)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	佐々木 眞 嗣	62 (子 18)
顧 問	藤 原 民 也	特	幹 事	伊 東 寿 勝	H 1 (気 37)
相談役 (元会長)	山 崎 時 男	24 (専 8)	幹 事	鈴 木 順	H12 (電電 5)
相談役 (元会長)	阿 部 長 一	19 (専 4)	仙台支部		
相談役 (元会長)	太田原 功	30 (気 3)	幹 事	千 葉 浩 克	40 (気 13)
相談役 (元会長)	佐々木 喜八郎	28 (気 1)	幹 事	菅 原 利 一	55 (気 28)
相談役 (元会長)	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	55 (気 28)
			幹 事	佐 藤 雄 一 郎	H 3 (気 39)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H 9 (電電 2)



# 平成 29 年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース構成員名簿

平成 30 年 1 月 1 日現在

電気電子通信コース (コース長 小林 宏一郎 教授)			知能・メディア情報コース (コース長 萩原 義裕 教授)		
職 名		氏 名	職 名		氏 名
教 授		長 田 洋	教 授		安 倍 正 人
教 授		小 林 宏一郎	教 授		今 野 晃 市
教 授		高 木 浩 一	教 授		永 田 仁 史
教 授		恒 川 佳 隆	教 授		西 山 清
教 授		西 館 数 芽	教 授		萩 原 義 裕
教 授		本 間 尚 樹	教 授		藤 本 忠 博
教 授		向 川 政 治	准 教 授		明 石 卓 也
准 教 授		秋 山 雅 裕	准 教 授		木 村 彰 男
准 教 授		叶 榮 彬	准 教 授		金 天 海
准 教 授		菊 池 弘 昭	准 教 授		張 建 偉
准 教 授		大 坊 真 洋	准 教 授		中 谷 直 司
准 教 授		三 浦 健 司	准 教 授		松 山 克 胤
助 教		阿 部 貴 美	准 教 授		吉 森 久
助 教		佐 藤 宏 明	講 師		平 山 貴 司
助 教		高 橋 克 幸	助 教		佐 藤 信 太
			助 教		藤 岡 豊 太
			助 教		山 中 克 久
			事務補佐員		盧 忻
					懸 田 ひかる

技 術 部					
	職 名	氏 名		職 名	氏 名
理工学系技術部	第一技術室長	星 勝 徳	情報技術部	技術室長	栗 田 宏 明
	第二技術室長	太 田 康 治		技術専門職員	金 野 哲 士
	技術専門職員	那須川 徳 博		技術専門職員	田 頭 徹
	技術専門職員	志 田 寛		技術専門職員	福 岡 誠
	技術専門職員	千 葉 寿		技 術 職 員	田 口 慎
	技術専門職員	萩 原 由香里			
	技術職員	多 田 静 香			
	技術職員	平 山 有 沙			
	技術職員	藤 原 歩			
	技術職員	古 館 守 通			
	技術職員	石 川 利 明			
	技術職員	千 葉 茂 樹			

# 平成 29 年年表

1/14-15	大学入試センター試験
1/18	理事会・新年会打合せ、「きたかみ」63号第3回編集委員会、一祐会データベース使用許諾文書の件、28年度第2回会費検討委員会 旗福会長・柏葉相談役・立花副会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 工学部地域連携センター
1/20	電気電子工学特別研修 「燃料電池自動車の最近の動向について」三好新二氏（日本自動車部品総合研究所）
1/24-25	平成 29 年度大学院博士前期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 29 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻志願者 11 名（私費外国人留学生，社会人特別選抜は志願者なし）
1/26	平成 29 年度大学院博士後期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 29 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻志願者 1 名
1/27	電気電子工学特別研修 「国策会社 電源開発株のダイナミズム -革新的技術の導入と実証を通して-」伊藤輝美氏（電源開発）
1/27	【SPERC 研究交流発表会】 「タンパク質の細胞内輸送のメカニズム」（感覚器工学研究グループ），「アリアル基で機能化したテトラチエニルエチレン誘導体の合成と物性」（放射光利用研究グループ），「有機半導体の作製と放射光による評価」（放射光利用研究グループ），「二酸化炭素を吸収したイオン液体の潤滑特性評価」（二酸化炭素利用グループ），「縦型双胴無人飛行船の開発」（無人航空システム研究グループ），「実地試験に向けた水槽底掃除ロボットの開発」（農林水産ロボティクス研究グループ），「プラズマ溶射コーティングの弾性係数評価法の最前線」（プラズマライフ研究グループ），「電気系研究者が行うコンクリートの非破壊検査技術」（非破壊センシング研究グループ），「シーケンシャルアレーを用いたアナログ OAM 伝送」（スマートエネルギー研究グループ），「大型液体アルゴン検出器の実現に向けた要素開発」（加速器科学研究グループ），「ソーラーパネルからの落雪・除雪問題と表面性状の影響に関する考察」（スマートエネルギー研究グループ），「マッチング処理を用いた編集された画像の元画像検索技術」（実践的ロボットビジョン研究グループ）
1/28	平成 28 年度第 1 回 HP 検討委員会 宮手理事・佐藤理事・柏葉相談役・旗福会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事
1/28	平成 28 年度第 3 回理事会 17 人 岩手県公会堂 12 号室
1/28	盛岡支部主催科会新年会 岩手県公会堂 21 号室 34 人
2/1	入学願書受付締切。システム創成工学科電気電子通信コース：前期 2.0 倍，後期 7.3 倍，同知能・メディア情報コース：前期 2.2 倍，後期 6.0 倍
2/2	草刈賞選考委員会 岩手大学理工学部 選考委員 電気電子工学コース：西館数芽（コース長）・本間尚樹（4 年生担任） 情報システム工学コース：今野晃市（コース長）・永田仁史（4 年生担任） 電気電子情報科会：旗福寛（会長）・柏葉安兵衛（相談役・選考委員長）
2/3	電気電子工学特別研修 「車載組込みソフトウェアの開発の魅力と工夫」加藤喜昭氏（アイシン・コムクルーズ）
2/9	「きたかみ」63号第4回編集委員会 柏葉相談役・旗福会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部
2/10	電気電子工学特別研修 「第三次産業革命を経て第四次産業革命へ、ネクスグループの取り組み」秋山 司氏（ネクス）
2/16	電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース）卒業研究発表会
2/20	電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）修士論文審査発表会
2/24	「きたかみ」63号校了
2/25	平成 29 年度個別学力検査前期日程。システム創成工学科電気電子通信コース志願者 75 名，同知能・メディア情報コース志願者 77 名
3/1	【2016 年度第 1 回 SPERC 実践的ロボットビジョン研究グループ講演会】 「最新ロボナビビジョンとその実産業応用例」金子俊一氏（北海道大学教授）
3/1	「きたかみ」63号発行 5400 部
3/4	西谷泰昭先生最終講義 岩手大学復興祈念銀河ホール
3/8	新正会員歓迎会 85 人（新正会員・院生 68 人） 岩手大学理工学部生協食堂 第 14 回草刈賞候補者 梅坂つかさ（電気電子工学コース）、伊藤大（情報システム工学コース）、佐藤浩（情報システム工学コース）
3/12	平成 29 年度個別学力検査後期日程。システム創成工学科電気電子通信コース志願者 87 名，同知能・メディア情報コース志願者 72 名
3/14	【Ginga Lecture + 2016 年度第 2 回 SPERC 実践的ロボットビジョン研究グループ講演会】 「Mu country, my university and my profession」Suvdaa Batsuuri 氏（モンゴル国立大学准教授）
3/17	三輪譲二先生最終講義 岩手大学理工学部総合教育研究棟（情報系）ICT プログラミング演習室
3/23	岩手大学卒業式・修了式 工学部第 65 回卒業生：電気電子・情報システム工学科 125 名（電電コース 67 名，情報コース 58 名） 大学院博士前期課程第 48 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 49 名 大学院博士後期課程第 18 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻該当者なし
3/31	情報システム工学コース 西谷泰昭教授 定年退職，三輪譲二准教授 定年退職 工学系技術室 千葉茂樹氏 定年退職（次年度より延長雇用）
4/1	岩手大学大学院改組 工学研究科博士前期課程が総合科学研究科（修士課程）の地域創生専攻及び理工学専攻に分離再編（電気電子工学専攻は電気電子通信コースに，情報システム工学専攻は知能情報コースにそれぞれ再編）
4/7	岩手大学入学式

	理工学部入学生:システム創成工学科電気電子通信コース 68 名(うち地域創成特別選抜ものづくり系 1 名), 知能・メディア情報コース 63 名(うち地域創成特別選抜ものづくり系 2 名) 3 年次編入学生:電気電子工学コース 3 名, 情報システム工学コース 3 名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生:電気電子通信コース 46 名, 知能情報コース 15 名 工学研究科博士後期課程入学生:電気電子・情報システム工学専攻 2 名
4/12	総会案内等打合せ 柏葉相談役・篠福会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部
4/29	総会案内・東京支部大会案内発送作業 東京支部
5/18-19	電気電子工学コース ソフトボール大会
5/19	平成 28 年度岩手大学電気電子情報科会会計監査 及川二千朗監事・大坊真洋監事・篠福会長・柏葉相談役・柳橋理事 岩手大学理工学部
5/23	理事会事前打合せ 理事会協議提案事項について 篠福会長・柏葉相談役・恒川副会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学理工学部
5/27	平成 29 年度第 1 回理事会 総会提案事項協議 15 人 岩手県公会堂 16 号室
5/29-6/2	岩手大学理工学部授業一般公開
6/1	開学記念日
6/中	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成 29 年 9 月修了予定者》および中間発表会《平成 30 年 3 月修了予定者》(分野別を実施)
6/17	平成 29 年度仙台支部総会 ハーネル仙台 講演 今野晃市教授「考古学と情報叙述の出会い」、高橋克幸助教「大気圧放電プラズマの環境・農業への応用」
6/22-23	平成 30 年度一般編入学者選抜試験 電気電子通信コース志願者 16 名, 知能・メディア情報コース志願者 9 名
6/24	平成 29 年度岩手大学電気電子情報科会総会 92 人 アルカディア市ヶ谷 平成 28 年度事業報告・決算報告・会計監査報告・平成 29 年度事業計画・予算 について 講演 小林宏一郎教授「大学の近況と研究動向」、吉澤和弘氏「『更なる価値』をお客様へ・世界へ」
6/24	平成 29 年度東京支部大会 アルカディア市ヶ谷
7/4	総合科学研究科理工学専攻推薦入学者選抜試験《平成 30 年 4 月入学》電気電子通信コース志願者 3 名, 知能情報コース志願者 7 名
8/9	オープンキャンパス
8/10	情報システム工学コース スポーツ大会
8/23-24	平成 29 年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《平成 29 年 10 月入学》電気電子通信コース志願者 1 名, 知能情報コース志願者 2 名 平成 30 年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《平成 30 年 4 月入学》電気電子通信コース志願者 38 名, 知能情報コース志願者 7 名 平成 29 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 29 年 10 月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者 1 名(うち社会人特別選抜 1 名)
8/29	平成 30 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 30 年 4 月入学》電気電子・情報システム専攻志願者なし 理事会事前打ち合わせ 会長・事務局 3 人・柏葉相談役 岩手大学理工学部
9/2	平成 29 年度第 2 回理事会 16 人 岩手県公会堂特別室
9/22	平成 30 年度理工学部 AO 入試 I (第 2 次選考) 地域創生特別プログラムものづくり系:電気電子通信コース受験者 3 名(合格者 1 名), 知能・メディア情報コース受験者 2 名(合格者 1 名)
9/25	平成 29 年度岩手大学修了式・卒業式(農業教育資料館)
10/2	岩手大学入学式(平成 29 年度 10 月入学者) 大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学生:電気電子通信コース 1 名, 知能情報コース 1 名 大学院博士後期課程入学生:電気電子・情報システム工学専攻 1 名
10/4	阿部源祐相談役墓参打合せ 太田原相談役・柏葉相談役・篠福会長・柳橋事務局 岩手大学理工学部
10/21	オープンキャンパス(大学祭)
11/6-10	岩手大学理工学部授業一般公開
11/8-10	第 32 回信号処理シンポジウム開催(於 盛岡地域交流センター)
11/10	電気電子工学特別研修 「地域型木質バイオマス発電について」森井利雄氏(花巻バイオマスエナジー)
11/10-12	Nicograph 2017 開催(於 いわて県民情報交流センター)
11/11	故阿部源祐相談役(6 月 17 日逝去)墓参会 仙台・輪王寺 14 人
11/16	【2017 年度第 1 回 SPERC 実践的ロボットビジョン研究グループ講演会】 「Deterministic Crowding と物体検出における評価方法の解説」佐藤惇哉氏(岐阜大学助教)
11/22	平成 30 年度岩手大学理工学部推薦入試 I 電気電子通信コース志願者 22 名, 知能・メディア情報コース志願者 35 名
11/24	電気電子工学特別研修 「これからの社会人としてのキャリアをどう選択すべきかを迷っている学生に話したいこと」阿部新生氏(ソフトクリエイティブホールディングス)
11/24	「きたかみ 64 号」第 1 回編集委員会、会費検討委員会 岩手大学理工学部 篠福会長・柏葉相談役・立花副会長・久保田盛岡支部長・長田理事・柳橋理事
12/上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成 30 年 3 月修了予定者》および中間発表会《平成 30 年 9 月修了予定者》(分野別を実施)
12/6	電気電子工学特別研修 「持続可能(サステイナブル)な社会とは」山崎慶太氏(竹中工務店)
12/6	【SPERC 農林水産ロボティクス研究グループ講演会】 「岩手大学発ベンチャーエイジングについて」出澤純一氏(株式会社エイジング代表取締役社長)
12/8	年会費私製払込票の件問い合わせ等 盛岡北郵便局 柳橋事務局
12/16	平成 29 年度第 3 回情報処理学会東北支部研究会開催
12/20	会費検討委員会打合せ 岩手大学理工学部 立花副会長(会費検討委員長)・柳橋理事・佐藤匡理事・柏葉相談役

# 岩手大学電気電子情報科会会則

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。  
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

## 第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

## 第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。  
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。  
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

## 第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。  
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を

以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

## 第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- |      |      |                                   |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長  | 1名   | 正会員より選出する。                        |
| 副会長  | 3名以内 | 正会員より選出する。                        |
| 理 事  |      | 正会員より互選する。<br>尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名   | 正会員より選出する。                        |
| 幹 事  |      | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。              |
| 顧 問  | 若干名  | 特別会員より会長がこれを委嘱する。                 |
| 相談役  |      | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。            |

- 第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。  
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。

- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。  
副会長は会長を補佐する。  
理事は本会の庶務を掌理する。  
会計監査は会計を監査する。  
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。  
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

## 第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌〔きたかみ〕を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

## 付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。  
(昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)  
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)  
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)  
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)  
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)  
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)  
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)  
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)  
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)  
岩手大学大学院総合科学研究科設置の日から適用

## 「きたかみ」64号トピックス

第158回芥川賞受賞者は岩手大学出身!

候補にはあがるけれど、なぜ岩手からは芥川賞がでないのかしらねと、友人と話したことがありました。

ところがなんと、157回には、盛岡市在住の沼田真佑氏が「影裏」で受賞。盛岡の地名が随所に出てくるだけでニンマリして読みました。

そして続くように158回は遠野市出身の若竹千佐子氏が受賞しました。

若竹氏は岩手大学教育学部卒業とのことですから、学部は違えども嬉しいことです。

受賞のニュースで「おらおらでひとりいぐも」という題名の意味を全く理解していないアナウンサーの平坦な発音に思わず笑ってしまいました。

解説では、宮沢賢治の「永訣の朝」からとった題名だとありましたが、「Ora Orade Shitori egumo (一人で逝くから)」という妹トシの言葉に対し、「おら おらで ひとり いぐも」は「わたしはわたしで ひとりで やって行くから」という 逞しさとはほえまじさを感じられます。

盛岡に住んだことのあるみな様は、決してあのアナウンサーのような読み方はしないだろうと思います。

## 編 集 後 記

今年は雪の多い盛岡の冬です。北陸地方の記録的な雪に比べれば文句も言えないと思いながら春を待っています。

「きたかみ」64号をお届けします。今回は佐藤淳先生の思い出や偲ぶ会の報告を寄せていただきました。在りし日の先生のお姿が浮かんでくる編集作業でした。また会長挨拶にありますように、いつも科会に心を寄せてくださっていた大先輩の阿部源祐氏がお亡くなりになりました。亡くなられる数日前に「総会に行けないから、みなさんによろしく」とお電話いただいていた。100歳のお祝いのお話もしていましたから残念でなりません。心よりご冥福をお祈り致します。

ご寄稿いただいたみな様に感謝申し上げます。誠意をもって編集作業を進めたつもりですが、至らぬ点もあるかと思えます。どうぞお許しいただきますようお願い致します。また、いつもながら様々な無理をきいて即対応して下さる阿部謄写堂さんに感謝申し上げます。

編集委員 籾 福 寛 (会 長：昭和 38 年電気卒)  
柏 葉 安兵衛 (相 談 役：昭和 38 年電気卒)  
久保田 賢 二 (盛岡支部長：昭和 42 年電気卒)  
立 花 龍 一 (副 会 長：昭和 61 年情報卒)  
長 田 洋 (事 務 局：昭和 62 年電気卒)  
木 村 彰 男 (事 務 局：平成 3 年情報卒)  
柳 橋 好 子 (事 務 局：昭和 45 年電子卒)

き た か み 第64号

発行日 平成 30 年 3 月 1 日  
発行者 盛岡市上田 4 丁目 3 番 5 号  
岩手大学工学部内  
**岩手大学電気電子情報科会**  
☎ 019-621-6381  
印刷所 (株)阿部謄写堂  
盛岡市本町通 2 丁目 8 番 37 号  
☎ 019-623-2361

# 平成30年度岩手大学電気電子情報科会並びに 懇親会総会開催のご案内

平成30年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

総会への出欠については、「きたかみ」綴込みのハガキに、住所や連絡先等をご記入いただき、一ヶ月前の平成30年5月23日までにご投函いただきたくお願い申し上げます。

## 記

日 時 平成30年6月23日(土)

受 付	午後1時30分～
盛岡支部総会	午後2時00分～2時30分
総 会	午後2時30分～3時30分
講 演 会 等	午後3時30分～4時30分
懇 親 会	午後5時00分～7時00分

場 所 ホテルルイズ

〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通7-15

TEL 019-625-2611

議 題

1. 平成29年度事業報告、決算報告承認
2. 平成30年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講 演 会 演題「未定」

講師：太田原 功 氏（草刈特別功労賞受賞者）

懇親会会費 5,000円（懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。  
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。）

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴込みのハガキを使用するか、  
下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学理工学部内）

電気電子通信コース担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381  
E-mail osada@iwate-u.ac.jp

知能・メディア情報コース担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488  
E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253  
E-mail t.k-yngbs@nifty.com